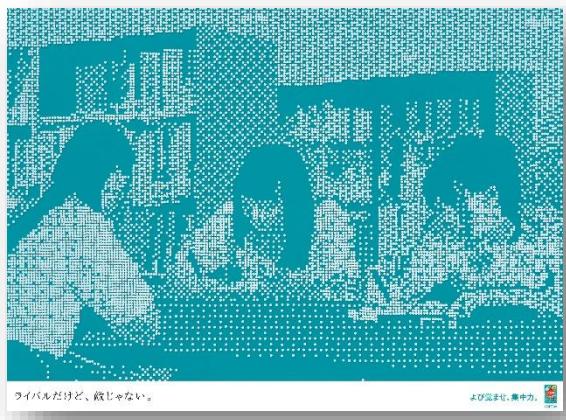


ライバルだけど、敵じゃない。

B 友情、信頼 小学校 高学年、中学校



思考を促す 発問

- 発問1 「ライバル」という言葉には、「敵（好敵手）」という意味があるのに、本当に「敵じゃない」と言えるのでしょうか。
- 発問2 ライバルがいないほうが、自分にとって好都合ではないでしょうか。
※ライバルが存在することのよさに気づきはじめたところで、次の発問をする。
- 発問3 ライバルがいると、どんなよいことがあるでしょうか。
※「あなたの周りには、ライバルと呼べる相手がいますか？」いる人は、その相手を大切にしたいですね。」と言って授業を終える。

ポイント

学級における仲間のあり方を考えさせたいときにおすすめ。その他、体育の授業でのチーム対抗型の学習前、運動会等の行事前、部活動、中学校3年生の受験期など、相手に対する敬意の気持ちを育みたいときや仲間とともに向上する意識を高めたいときに活用できる。

出典： 「よび覚ませ、集中力。」ポスター (2024)

クレジット： 森永製菓

ねらい

ライバルの存在は、自分のやる気の向上や限界突破につながることに気づき、ともに切磋琢磨していきたいという意欲を高める。

資料提示の工夫

授業開始と同時に、「敵」という言葉を隠して資料を提示し、隠れた箇所にどのような言葉があてはまるか予想する時間を設ける。数名が発表したあと、隠していた言葉を紹介するとともに、「ライバル」の意味を知らせる。
『デジタル大辞泉』：競争相手。対抗者。好敵手。
『新レインボー小学国語辞典』：強い対抗意識をもつ競争相手。好敵手。